

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和3年度事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考
（単位：千円）						

(1) 芸術文化振興事業

1) 周年記念事業

① せんだいメディアテーク開館20周年記念事業						
せんだいメディアテークの開館20周年を記念し実施する。						
1	せんだいメディアテーク開館20周年事業	通年	メディアテーク	3,000	0	
令和3年1月に迎えた開館20周年を機に、同時代性ある新たなメディアテーク像を打ち出していくために、現行の課題を乗り越え、次の10年の方向性を示すため、20周年記念誌を制作・発行する。 ① 記念誌発行(通年): 全国書店に流通する書籍として制作 ② ラウンジ展示「せんだいメディアテーク・クロノロジー2001-2021」(4月～9月 7階ラウンジ * 令和2年度より継続): 20周年までの歩みを、年表や写真、映像で紹介						
② 能-BOX開館10周年記念事業						
能-BOXの開館10周年を記念し実施する。						
2	能-BOX開館10周年記念事業	9月	能-BOX	3,460	2,960	市負担金 2,000 入場料 960
せんだい演劇工房10-BOXの別館として平成23年8月に開館した「能-BOX」の開館10周年事業として、能楽師 津村 禮次郎を核とした、能楽とコンテンポラリーダンス(森山開次)を融合させた舞台作品の上演、地元の能楽団体や伝統芸能・演劇団体との共同による祝祭的な事業を実施する。						入場者: 200人

2) 経常事業

① 市民文化事業への支援事業						
3	多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業	6/1～12/31	—	85,000	85,000	市補助金 85,000
新型コロナウイルス感染症の影響が拡大・長期化する中、仙台市内の文化芸術関係者の活動継続を支援するため、多様なメディアを工夫して用い、市民に文化芸術を届ける創造的な活動に対して助成する標記事業を、令和2年度に続いて実施する。助成件数は150～200件程度を想定している。						150～200件
4	実演芸術の公演会場費助成事業	4/1～9/30	—	120,000	120,000	市補助金 120,000
音楽、演劇等の公演開催を支援するため、市内の民間屋内施設を利用し、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら実演芸術の公演を行う主催者に対し、会場使用料の一部を助成する。当初は令和3年3月31日で終了する予定であったが、対象期間を9月30日まで延長し、令和3年度も継続して実施する。						
5	持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成推進事業(仮)	10月～3月(予定)	—	30,530	30,530	市補助金 30,530
新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた次世代の文化芸術環境モデルを試行・形成・推進するために、新しい手法により仙台・東北の文化芸術を市内外に発信する事業や、地域の文化芸術活動の基盤を支える中間支援事業、感染症拡大や自然災害等に伴う地域課題に文化芸術の側面から応じた地域協働事業を、地域の芸術家、市民団体、民間施設等から公募し、文化芸術の専門家や有識者からなる外部委員会による選考を経て、助成する。						15団体程度
6	コロナ禍の安全・安心な文化芸術活動のための協働支援事業(仮)	通年(予定)	—	2,375	2,375	市補助金 2,375
コロナ禍における文化活動の再開・継続に向けて、市民が安全・安心な環境で文化活動を行うためのワークショップやセミナー等を、文化芸術団体と協働し中間支援事業として実施する。						
7	支援・助成・協力事業	2回募集	—	20,302	19,425	市補助金 19,425
市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行う。「支援事業」では、当年度より情報誌に代えてウェブサイトにも市民企画事業の告知を掲載する方法で広報サポートを実施する予定。 「助成事業」では仙台市の文化芸術の振興と普及啓発および郷土の歴史継承を推進するため、文化活動の経費の一部を助成する。また、令和4年度のリニューアルに向けて準備を進める。 「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行う。						支援: 約150件 助成: 約130件 協力: 約70件

8	名義後援	通年	—	0	0	
団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行う。						
②公演事業						
9	宝塚スペシャル企画「タカラジェンヌOG公演」	3月	仙台銀行ホールイズミティ21	3,475	3,475	入場料等 3,375 協賛金 100
新型コロナウイルスの影響で中止となる「宝塚歌劇全国ツアー仙台公演」の代替企画として開催。タカラヅカOG数名による歌と踊りの祭典。						入場者：750名
10	仙台クラシックフェスティバル2021	10/1～3	日立システムズホール仙台他	87,763	84,963	市負担金 27,943 入場料 48,761 協賛金他 8,259
<p>事業団設立20周年記念事業として、2006年(平成18年)、敷居の高いクラシック音楽に親しみを持ってもらう、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。昨年度はコロナ禍により中止したため、新型コロナウイルス感染対策もほどこしたうえで、令和3年度に改めて15回記念の事業として実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で84の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのはしご鑑賞を推奨する。 ・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。 ・これまでの仙台国際音楽コンクール入賞者や仙台フィルメンバーの個性を活かした公演の他、仙台の音楽シーンを支える在仙音楽家、学校で音楽を学ぶ学生など、楽都仙台がこれまで育ててきた音楽的財産が集結する仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込む。 						入場者： のべ32,000人
11	もりのみやこのふれあいコンサート	12/3	仙台銀行ホール イズミティ21	3,728	3,728	市補助金 3,728
障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催するコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えており、一昨年は申込者多数により抽選を行った。仙台市立中学校の特別支援学級の生徒も招待している。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。						入場者：1,000人
12	新春いずみ寄席	1/10	仙台銀行ホール イズミティ21	2,363	1,520	入場料 1,520
新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて、東京の定席寄席と同規模の広さの小ホールを会場に臨場感のある落語寄席を実施する。13時～、16時～の1日2回公演を行う。						入場者：のべ400人
13	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	15	0	
放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。当年度は仙台オペラ協会第45回記念公演、第58回宮城県芸術祭(仙台市市民文化事業団賞の授与)ブロードウェイミュージカル「ピーターパン」、シアタークリエ企画「Home, I'm Darling」、おしりたんていミュージカル(いずれも仙台放送)、小山実稚恵ピアノシリーズ等を共催する。なお、例年共催している仙台青葉能と人形浄瑠璃 文楽については、自主財源減少のため当年度は共催負担金の支出を休止することとした。						

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

14	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年	日立システムズホール仙台	93,844	91,844	市負担金 44,792 入場料等 7,409 助成金 39,643
<p>仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台の発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。令和3年10月からのリニューアルオープニング事業に相応しいラインナップを揃えて実施展開していく。</p> <p><普及啓発事業></p> <p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(鑑賞会:10/26~29、11/9~11):コロナウイルスの影響を考慮し、これまでのやり方である市内小学5年生と中学1年生全員をホールに招待してのオーケストラ演奏会を取りやめ、約100校を目標に学校訪問ミニコンサートと題して都度編成を変えての仙台フィル特別メンバーによる年齢に応じたプログラムの演奏会を実施。</p> <p>②日立システムズホール仙台リニューアルオープン企画「パフォーマンスフェスティバル」(2/26,27 全館):大規模改修後の施設を市民に知ってもらいながら、市民の芸術文化活動の拠点として日立システムズホール仙台を更に活用してもらえよう、在仙アーティスト・パフォーマーの活動支援に繋げるとともに、二日間の全館貸切で魅力あるコンテンツを準備して開催。</p> <p><公演事業></p> <p>③名曲のちから「オーケストラ・スタンダード 2021年度シリーズ 全2回」(12/17、2/23 コンサートホール):平成23年度からの継続企画。オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。第1回目の12月公演は、指揮とお話で茂木大輔を招き、オーケストラコンサートの魅力を判り易く解説するトークを交えたプログラム「いつか聴いたあの音楽」を開催。第2回目の2月公演は、同年5月に迫った第8回仙台国際音楽コンクールに向けた特別企画として、前回2019年第7回コンクールの最高位入賞者2名をソリストとして招くプログラム「コンクールから生まれた強い絆と未来」を開催。</p> <p>④仙台フィル「明日へのコンサート2021」～東日本大震災から10年を経て～(12/26 コンサートホール):震災から10年となる今年、復興とこれまでの支援に対する感謝を込めて「心の復興」に大きな力を果たした音楽で多くのみなさまに感謝の意を表すプログラムを予定。仙台市長のメッセージとともに、多言語対応を含めた同時中継配信により全世界に向けて発信を行う。</p> <p>⑤仮:現代演劇公演(2月 シアターホール):観客の新規開拓を前提に良質な演劇公演を招聘。</p> <p>⑥コンテンポラリーダンス公演(11月~12月 交流ホール):豊かな表現力と感性を持った実力派のダンサーを招聘し、良質なコンテンポラリーダンス作品を市民に届ける。片足のダンサー大前光市と和太鼓奏者Atoaのコラボレーションを予定。</p> <p><人材養成事業></p> <p>⑦せんだいダンスプロジェクト(10月~3月 練習室):未就学児の親子、小学生、中学生以上などプログラム毎に年代等の対象を絞り込み、ダンスに関する複数のプログラム実施により、多様な個性ある人材を育成する。</p> <p>⑧高齢者向け演劇ワークショップ(通年 交流ホール 練習室):高齢化社会の課題である「老いていくこと」「年齢を重ねること」について参加者同士のコミュニケーションをとりながら、舞台表現を体験するワークショップと、これを通じて創り出した小作品の発表を行う。</p> <p>⑨障害のある人とない人が創る人形劇「SHIROアトリエ&スタジオ」(10月~1月 アトリエ、練習室、交流ホール):ファシリテーターがサポートやアドバイスをしながら、人形づくりや衣装づくり、劇の背景面を描くなど、人形劇に必要な様々な作品を普段使ったことのない画材や材料で試しながらつくる。</p> <p><その他></p> <p>⑩青年文化センター事業評価(通年):青年文化センターの活性化に資する事業の有効化をはかるため、事業の評価を実施する。</p>						

15	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	440	190	受講料等 10 コピー料収入 180
<p>地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行う。当年度は9月末まで大規模改修による休館であるため、リニューアル後の事業実施に向け取り組む。</p> <p>①日立システムズホール仙台リニューアルオープン企画「パフォーマンスフェスティバル」(2/26,27 全館):開館30周年の節目に、記念イベントとして令和2年度に企画した「パフォーマンスフェスティバル」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、当年度に改めて、施設のリニューアルのお祝いと、大規模改修後の施設を市民に知ってもらいながら、市民の芸術文化活動の拠点として日立システムズホール仙台を更に活用してもらえよう、在仙アーティスト・パフォーマーの活動支援に繋げるとともに、二日間の全館貸切で魅力あるコンテンツを準備して開催。(舞台芸術振興課と協働で実施。再掲)</p> <p>②青年文化センター施設機能強化事業群</p> <p>ア.地域連携事業(通年) 旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「わんぱく森²(もりもり)がっこ」や、旭ヶ丘市民センターとの協働による地域に根差した施設としての役割を果たすための事業を行う。具体的には、施設の植込みに子どもたちと花を植える「フラワー大作戦」や「秋のファーム収穫祭」などを予定。</p> <p>イ.フリースペース活用事業(通年) 展示事業:エントランスホールなど共有スペースを活用し、当館から発信している劇場・音楽堂等発信事業などの取り組みや、大規模改修前後の変更箇所についての展示を行う。 知の場所づくり(サラダ文庫):事業団関係の書籍、雑誌などの文化情報を配架した移動ラックをエントランスホールに設置し、来館者に自由閲覧してもらおう。令和元年度から継続。</p> <p>ウ.諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(通年) 当館の特長の一つである諸室を活用し、施設機能のPRを図るとともに、利用促進を促す。</p> <p>エ.ホール活用事業(調査・準備)(通年) 出演者や来場者がいる状況での避難訓練コンサートなど、ホールを活用した事業について検討を継続する。</p> <p>オ.共通経費</p> <p>③コピーサービス事業(通年) 施設利用者用のサービスを継続して実施する。</p>						
16	泉文化創造センター活性化事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	4,572	3,815	入場料他 1,710 助成金 1,200 協賛金 900 販売手数料収入 5
<p>ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。</p> <p>①市民協働によるロビーイベント(年2回):様々な文化芸術の鑑賞機会と同時に、施設を広く市民に紹介することを目的に開催する企画。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施する。</p> <p>②ホール見学会(1日2回公演):普段目にする機会の少ない施設のバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験等の参加型の見学会を実施する。小学生を対象にして開催し、親子で楽しみながら施設および舞台に興味を持ってもらう内容とする。指定管理者グループ構成団体の(株)東北共立の舞台職員が企画段階から参画し、協働で運営する。</p> <p>③ピアノ弾き込みボランティア運営(年3回程度):大・小ホールのコンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施する。</p> <p>④市民ギャラリー・エントランスロビーでの展示(市民ギャラリー/1回1週間程度、ロビー/通年):地域に縁のある団体や個人との協働で写真または絵画等の展示を行い、市民ギャラリーの利用促進のためのモデル事業を開催する。また、館内の有料スペース以外の活性化のために、エントランスロビー等において時節に合わせた小規模な展示等を実施する。</p> <p>⑤コンサートシリーズ「イズミノオト」(7/3、11/28、2/27 小ホール):仙台市泉区出身で在住の音楽家による音楽監修で良質なコンサートを開催、クラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていく幅広いプログラムを実施する。</p> <p>⑥避難訓練コンサート(秋頃1回):ホールでのコンサート本番中に地震が発生したという想定で、実際に来場者を募って行う避難訓練を兼ねたコンサートを開催する。</p> <p>⑦泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売する。また、仙台市市民文化事業団主催の入場券も併せて取り扱い、仙台クラシックフェスティバルについては専用端末を用いて一般販売ならびに友の会先行販売に対応する。また、入場無料の整理券配布等については当館以外を会場とするイベントを含めて積極的に取り扱う。</p>						
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。						
17	猿舞座のさるまわし	令和3年度中	榴岡公園 歴史民俗資料館	40	0	
榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の14回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気です。伝統芸に親しむ。						参加者:400人
18	れきみん秋祭り2021 伝統芸能の記録	令和3年度中	インターネット上	437	84	助成金 84
これまでの「れきみん秋祭り」への出演団体のうち、コロナ禍でも再開しつつある芸能団体(神楽、鹿踊剣舞など)の現地での練習や上演(寺社等への奉納)の様子を取材し、映像記録としてインターネット上で広く公開する。						閲覧数:5,000人

19	歴史的な生活体験教室	5月～11月	富沢遺跡保存館他	285	160	古代米販売 140 参加料 20
	当館の敷地や隣接地を利用して、米づくりなど富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験する教室を行う。参加家族が協働して作業することを主眼に置き、歴史体験的活動を通して親子の絆を深める機会とする。富沢遺跡の特徴や地域資源を活かした、歴史生活体験型事業として実施する。対象は親子10組(これまでの半数)とし、5月～11月までの計6回(田植え・稲刈り・収穫祭等)の作業及び行事を予定している。また、収穫物を利用して、一般来館者を対象とした工作・試食体験も行う。収穫した古代米は参加者に配布し、余剰米はグッズとして当館で販売するほか、古代米の成長の様子などを情報発信する。					対象者:親子10組
20	地域交流促進事業	夏～冬季	富沢遺跡保存館	200	87	市指定管理料 87
	当館の森(地下展示・野外展示)の価値の共有や保全への共感を得ることを目的に、コンサートを中心に据え、地域に根ざしたイベントを行う。平成30年度より指定管理業務「たのしい地底の森教室」に結び付けて実施しており、これまで参加者から好評を頂いた閉館時間帯の施設・野外展示利用など、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施する。地域の方々が参加しやすく、今後さらに地域の人材と組織を活かしたイベントとなるよう企画し、地域活性化に寄与していきたい。また、季節によって大きく変わる当館の魅力を広く知っていただくために冬季以外にも実施する。					
21	歴史・芸術融合事業 「ミュージアム・シアター“狩人登場!”」	通年	富沢遺跡保存館他	966	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。これまでの活動に加え、学校利用向けの出現を実施し、事業の可能性を広げていく。根本となる狩人の演じ方や衣装に関しては、実験考古学的手法も用い、旧石器時代の生活について考察を深めるための調査研究や演出などの検討を行う場を設ける。					
22	映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」	通年	富沢遺跡保存館	111	0	
	地域に根ざした博物館として、地域情報を記録・収集・発信することを目的とした事業。仙台市在住の映像クリエイターを講師に招き、記録映像の撮影の仕方などを学ぶワークショップを実施し、地域住民の「アーカイブ」事業への関心を高めるよう努める。そのほか地域に根ざしたテーマでの記録撮影や映像記録の収集を行い、市民とともに地域アーカイブスを築いていく。					
23	縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」	通年	縄文の森広場	50	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう「まつり」の復元と創造を目指してこれまで調査研究活動を行ってきた。平成29・30年度には、市民と一緒に「草舟づくり体験」を行い、乗船体験をした。また、調査研究活動の成果を公開するイベントとして、「縄文人の記憶の宴」を継続して実施してきた。本イベントは、縄文時代をイメージした演奏・舞・食・火をテーマに、市内の劇団員や市民が縄文人に扮して巨大な火祭り・縄文の音楽・踊りを行ったものである。令和2年度はコロナの影響により観客を入れたイベントの実施は見合わせ、関係者によるまつり再現を撮影し、これまでの記録映像と合わせて編集を行い、2本の動画にまとめて、ネット上で公開した。当年度はこれまでの事業内容の評価・見直しを行うため、外部講師によるワークショップ等の開催を行う。					
24	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	100	0	
	近隣学校や地域との結びつきを深め、より地域に根ざした施設になることを目的とした事業である。平成28年度から「ドッキーをつくらう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の上野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。令和2年度はコロナの影響により食に関わるものは避け、アーティストとオンラインで繋がったカラーリングブック製作のイベントを開催した。当年度も引き続き、楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを行う。					
25	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	800	0	
	新たな展示手法の開発と導入を図るための事業として令和2年度から開始した。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。令和2年度は、リビングヒストリーの技術・知識をスタッフが習得するため、国内外の研究者や実践者を招聘する予定であったが、コロナの影響により実施を見送った。3次元計測では将来的にイベントや展示に活用可能なデータを作成するため、ハイスペックPCをリースしデジタル写真計測を行った。当年度も引き続きデータの蓄積を行う。リビングヒストリーでは、すでに実践している施設や研究者などと情報交換を行うことを目的として、オンラインでの開催も念頭に、研究会やセミナーを開催する。					
26	コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー	通年	メディアテーク	106	0	
	市民による草の根的なアーカイブ活動を示す「コミュニティ・アーカイブ」という視点をもって、協働事業について、参加する市民あるいは専門家、実践的あるいは研究的視点など様々な角度で分析、広く共有していく小冊子(ZINE)を作成する。					
27	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	231	0	
	定禅寺通りに面した広場であるメディアテーク1階の巨大空間を、照明や映像等で演出・活用し、コロナ禍に対応した市民のひろばづくりを行う。					

28	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	925	1,280	刊行物販売 1,280
<p>ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。</p> <p>①歴史民俗資料館グッズ: 昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台北下絵図、昭和26年map of Sendaiの継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出307千円、収入500千円)</p> <p>②富沢遺跡保存館グッズ: 氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・リース等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売。(支出70千円、収入85千円)</p> <p>③縄文の森広場グッズ: 縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と販売。一部は、家庭で出来る縄文体験の役割も担っている。(支出185千円、収入185千円)</p> <p>④仙台文学館グッズ: 前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、特別展に関連したグッズの制作を依頼し来館者のニーズに応える。(支出300千円、収入310千円)</p> <p>⑤メディアテークグッズ: ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズを継続販売する。(支出63千円、収入200千円)</p>						収益事業
<p>⑤劇都仙台2021事業</p> <p>都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施する。</p> <p>①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働</p>						
29	市民能楽講座	11月	日立システムズホール仙台	3,997	3,997	市負担金 2,357 入場料 1,640
<p>能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。</p>						入場者: 556人
30	舞台スタッフ☆ラボ	2月	演劇工房10-BOX他	1,598	1,598	市補助金 783 受講料 165 助成金他 650
<p>舞台監督・音響・照明・舞台美術・衣装・小道具部門の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コースなど、新規部門の開設や、新たな組織・団体と連携し、参加者の声を反映しながら実施。だれもが舞台芸術や表現の楽しさと奥深さに触れる機会を体験でき、更なる人材育成と市民活動・舞台芸術活動の活性化を目指す。宮城野区文化センターとの共催により開催。</p>						対象者: 50人 観客: 100人
31	10-BOX鑑賞型プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	4,693	4,487	市補助金 4,187 入場料 300
<p>①仙台・劇のまちトライアルシアター: 10年間実施した「杜の都の演劇祭」に代わる新たな演劇振興事業として、テーマを設けた地元の創作公演、劇場以外での公演、地元の演劇関係者と意見交換を行うミーティング事業などを行う。</p> <p>②「SENDAI OROSHIMACHI Art Marché(せんだい御町アートマルシェ)」: 県内外の先駆的な作品・評価の高い若手劇団の演目を一堂に集め、数日間の演劇祭を開催。</p> <p>③共催公演: 鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げるもの。</p>						対象者: のべ1,800人
32	演劇と表現の講座	通年	演劇工房10-BOX他	946	946	市補助金 771 受講料 175
<p>身体表現に着目し、数日間にわたるワークショップを通して、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。講師は舞台(演劇、舞踊、古典芸能)、映画、映像など様々な分野の専門家から選抜し、独自の切り口を通して表現を体験する。</p>						対象者: 50人
33	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,723	1,723	市補助金 1,723
<p>平成24年度から実施している短編戯曲を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行による作品の上演機会の創出、若い世代の作家の作品発表の場を提供する。平成30年度から作品上演と作品募集を隔年で実施することとなり、今回は第7回大賞作品の上演と、市民劇団とのタイアップによるこれまでの最終候補作品の上演を行う。併せて第8回の募集を行う。</p>						
34	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	750	750	市補助金 645 受講料 105
<p>能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師: 山中逐晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓を図ってゆく。</p>						対象者: 70人
35	共通経費(事業間連携活動等事務費)	通年	演劇工房10-BOX他	1,376	279	市補助金 125 刊行物販売 154
<p>劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売・次年度の事業に向けた視察や調査研究など、事業間連携活動に必要な業務。</p>						
36	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	200	0	
<p>教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」を共催で実施する。また、小学校の学習発表会や地域の市民活動に音響・照明等の機材貸出や運営アドバイスなど舞台芸術活動の協力を行う。</p>						対象者: 200人

37	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
<p>磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者への指導も行う。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。</p>						対象者:70人
⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。						
38	地下鉄駅コンサート	9/25,26、 10/2,3	地下鉄駅構内	1,148	1,148	市負担金 1,148
<p>仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。</p>						
⑦東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業						
39	仙台市文化プログラム事業	通年	—	6,418	6,418	市負担金 6,418
<p>①「仙台市文化プログラム」公募・共催事業：オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における多様な資源を生かした事業を推進し新たな成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果が一過性にとどまることなく令和2年以降も継続的に波及効果をもたらすことを目指し、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で実施する。東京オリンピック・パラリンピックの延期に伴い文化プログラムの実施期間も令和3年度まで延長された。当年度は、令和2年度に実施した2事業について一部プログラムを組み替えながら継続実施する予定。</p> <p>②beyond2020プログラム認証事務：仙台市が「beyond2020」認証組織となり、事業団はその認証事務の一部を担う。</p>						
⑧東日本大震災10年に向けた「仙台舞台芸術フォーラム」事業						
40	仙台舞台芸術フォーラム	6月～3月	日立システムズホール仙台 演劇工房10-BOX他	12,784	12,784	市負担金 12,034 入場料,750
<p>東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信するモデル事業や基盤づくりを、令和元年度から3年間継続して行う。最終年となる当年度は、仙台ゆかりの劇作家・柴幸男による、東日本大震災から現在までの10年を描く新作公演を開催する。また、震災関連の舞台芸術作品の情報収集、関係者インタビュー・記録・編集の集大成として冊子を発行する。</p>						入場者:のべ2,400人
⑨土井晩翠顕彰事業						
41	土井晩翠顕彰事業	通年	—	1,000	1,000	市負担金 970 刊行物販売 30
<p>平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行う。具体的には、晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈、ならびに毎年10月19日の土井晩翠の命日の頃に記念のイベントを実施するとともに、晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努める。</p>						
⑩育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図る。						
42	芸術家派遣事業	6月～2月	各学校・地域	0	0	
<p>「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。前年度実績として105箇所へ派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は1,700万円程度を見込んでいる。</p>						
43	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	12/4,5、2/6	日立システムズホール仙台	600	0	
<p>仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共同主催により、平成27年より継続開催しており、令和3年度はピアノ、ヴァイオリン及び木管楽器(+ホルン)の3部門を実施する。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとする。</p>						受講生:70人 入場者:1,050人
⑪出版事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。						
44	出版物の販売継続事業	通年	—	14	104	刊行物販売 104
<p>①仙台文学館刊行物販売事業：『仙台北のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売。(支出0、収入60)</p> <p>②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業：『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,000円(税別)。(支出8、収入11)</p> <p>③『文化芸術の社会再生力』販売事業：事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売する。(支出0、収入3)</p> <p>④『RE:プロジェクト記録集』販売事業：平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物(『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売する。(支出6、収入30)</p>						

⑫ 広報事業等						
45	広報事業	通年	—	4,984	4,984	市補助金 4,768 その他事業収入 216
速報性、広域性、利便性などを踏まえて、令和2年4月にリニューアルした市民文化事業団ホームページを主な媒体とし、あわせてTwitter等のSNSも利活用しながら、当事業団の主催事業や活動内容、運営施設の情報等の発信を行う。						
46	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,139	1,900	友の会会費 1,900
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。月例通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等。年会費1,000円。						
会員：約1,900人						
47	事業団事業全体にかかる共通事務費	通年	—	2,745	0	
事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務などの事務経費等。						

(2) コンクール運営事業

① 仙台国際音楽コンクール事業						
令和4年に開催する第8回仙台国際音楽コンクールの準備を進める。						
48	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台他	15,663	15,663	市負担金 15,663
コンクール事務局の運営を行う。						
49	委員会運営	通年	日立システムズホール仙台他	2,063	2,063	市負担金 2,063
組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。						
50	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台他	12,710	12,710	市負担金 9,015 その他収入 3,695
動画データ等による予備審査を行い、第8回コンクールの出場者を決定し、令和4年2月15日までに発表する。						
51	広報事業	通年	日立システムズホール仙台他	17,690	17,690	市負担金 17,690
公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、第8回コンクール出場者募集広報を展開するとともに、開催告知広報として仙台市街地、地下鉄駅への広告物の掲出等を行うことにより、市民の認知度を高め、鑑賞者の拡大に努める。						
52	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台他	2,522	2,522	市負担金 2,522
第8回コンクール期間中の活動に向けた準備や研修等を行うボランティア活動の事務局業務を行う。 ①ボランティア新規募集及び活動説明会 ②会場運営サポート:コンクール関連事業等の会場運営、研修会 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「MAP for SIMC Contestants」(仙台のガイドブック)作成、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:コンクール期間中活動の企画、勉強会等 ⑤ホームステイ受入れ:受入れ勉強会、意見交換会等 ⑥ボランティア・プロジェクトチーム:第7回コンクール入賞者によるイベント及びコンクールPR事業の企画運営						
53	第7回仙台国際音楽コンクール 最高位入賞者副賞コンサート	通年	国内各地	18,748	18,748	市負担金 15,336 入場料等 3,412
コロナ禍により昨年度中止とした第7回コンクール最高位入賞者の副賞である、日本国内でのリサイタルを開催、CD制作等を行うとともに国内オーケストラとの共演の機会を提供する。また、第8回コンクール最高位入賞者の副賞の準備を行う。						
54	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	5,151	5,151	市負担金 5,151
仙台の音楽文化振興と第8回コンクールのPRを目的に下記事業を展開する。 ・第7回コンクール入賞者と市民オーケストラの共演及び小中学校訪問ミニ・コンサート ・オーディションで選ばれた仙台ゆかりの若い音楽家と仙台フィルメンバーによる弦楽五重奏等が共演する街かどコンサート「はばたけコンチェルト」						

(3) ジュニアオーケストラ運営事業

55	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21 日立システムズホール仙台	25,443	25,443	市負担金 17,018 受講料等 8,425
<ul style="list-style-type: none"> 仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 8月に夏合宿または集中練習を行う。 10月に「定期演奏会」を開催する。 3月に「スプリングコンサート」を開催する。 						
団員定員：122人						

(4)演劇系練習施設運営事業

56	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	26,688	26,688	市補助金 22,199 利用料等 4,489
「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。						収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設運営事業

57	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	68,642	68,642	市受託料 68,592 受講料 50
仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能を持ち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努める。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施する。 ・企画展(年3回程度) ・震災復興メモリアルや地域の魅力発信にかかるワークショップ・講座等 ・館の運営に資する情報の収集 ・紙媒体、ホームページ等による情報発信(企画展やイベントの実施報告含む)						

(6)芸術文化受託事業

(単位:千円)

58	市制施行132周年記念コンサート	7/5	仙台銀行ホール イズミティ21	4,400	4,400	市受託料 4,400
仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには第7回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第4位の佐藤元洋を迎える。						入場者:1,300人
59	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	17,151	17,151	市受託料 17,151
大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用する。						

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位:千円)

①仙台文学館普及啓発事業

60	特別展・企画展の関連事業	各展示の 開催時期	仙台文学館	430	430	市補助金 180 その他 250
特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。 ①写真展「星野道夫展」関連:スライドを利用したトークイベントや、文学館敷地を利用したワークショップなどを開催。 ②「こども文学館 えほんのひろば みちのく妖怪ツアー」関連:作家による妖怪談義や参加型の妖怪クイズワークショップなどを開催。 ③特別展「ほのぼのたちの杜」関連:講演会や、ワークショップなどを開催。 ④企画展「高山樗牛と土井晩翠」関連:研究者による講演会や作品を味わう音楽イベントなどを開催。						
61	ことばの祭典ー 短歌・俳句・川柳への誘い	6月	仙台文学館	470	470	市補助金 470
コロナウイルス感染拡大防止のため、例年開催していた合同吟行会の開催方法を変更し、事前応募での開催。賞の贈呈、選者講評は入賞者のみとし、全作品や選者の講評を密を避けるために、一定期間掲示し広く発表する。						
62	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,684	2,684	市補助金 4 受講料 2,380 その他 300
文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座を開講。開催にあたっては、安心して受講してもらえるよう、コロナ対策を徹底する。 ①佐伯一麦エッセイ講座:館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7回の開催を予定。 ②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースに加え、古典芸能を楽しむ部門を設け、各講座をそれぞれ3~5回連続で開催する。						
63	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。また団体利用向けに、常設展示にからめた内容のワークシートの作成を行う。						

64	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。						
65	情報誌の発行	通年	—	1,160	1,160	市補助金 1,160
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。						
66	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。コロナ禍で部屋自体は閉室しているが、情報コーナーの一部で展開を継続する。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。						
67	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。						
68	出版物等の販売	通年	—	651	651	市補助金 417 刊行物販売 234
佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業						
番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
69	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	25,000	25,000	市補助金 25,000
優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。「川俣正/仙台インプログレス」などのプロジェクト、人材育成、市民啓発のための「TALK」や「アートノード・ミーティング」などの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行う。						
70	展覧会事業	通年	メディアテーク	19,500	19,500	市補助金 8,000 入場料 1,000 助成金 10,500
主題「ナラティブの修復」を象徴する事業として、アーティストと協働し、今日的な社会の課題や哲学的な問いを表現によって投げかける展覧会。地域社会の過去と現在を読み解く多様な「物語り」の技法を、美術表現として探求している作家たちを紹介する。主として仙台を拠点に活動している表現者を選定し、震災から10年が経過した東北と、せんだいメディアテークの開館から20年目となる仙台を展望する。						
71	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	3,500	3,500	市補助金 2,000 助成金 1,500
市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意する。 <スタジオ情報発信> 市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画を文化面から活性化していくことを目指して、様々な市民文化活動と協働する。 <地域文化アーカイブ> 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組み事業を実施する。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信などにより、広く市民に活用される財産とする。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促す。						
72	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	4,400	4,400	市補助金 4,000 刊行物等販売 400
各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。 ①バリアフリー・デザイン事業: 目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳や、託児付き、手話通訳・要約筆記付きの事業を行う。 ②館長発信事業: 発信力のある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していく。併せて、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努める。 ③地域文化連携・施設活用推進: 各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくる。 また、取り組みがひろく市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んでいく。						

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考 (単位:千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

73	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	66,727	66,727	市指定管理料 66,727
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。						
74	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	270	270	市指定管理料 270
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。						

①特別展・企画展及び関連事業

75	企画展「せんだい職業づくし」	4/24～7/4	歴史民俗資料館	260	260	市指定管理料 260
職業とは生計を立てるための仕事のこと。日常的に従事する業務のこと。本企画展では仙台地方を中心に、工業商業、サービス業、伝統工芸など近代以降の地域産業における様々な職業の歴史を取り上げ、道具や工程、製品、店頭風景、絵葉書などの資料を通して、職業の歴史と文化を考える。						
76	企画展「学都と杜の都～仙台の高等教育と町の文化～」	7/17～11/7	歴史民俗資料館	977	977	市指定管理料 977
明治5年(1872年)の学制公布から150周年を迎える。明治時代後期以降学都仙台と称される高等教育機関や中等教育機関、女学校など隆盛した近代仙台の教育文化の変遷をたどる。本企画展では、杜の都の特色である祭り、芸能、音楽、演劇などの芸術文化もあわせて考えていく。						
77	特別展「和の道具～くらしの知恵と工夫～」	11/20～4/17	歴史民俗資料館	1,716	1,716	市指定管理料 1,716
衣食住など電化する以前の日常のくらしで使われていた台所の道具や、居間で使われていた道具の使い方などを紹介。本特別展では知恵と工夫をめぐらせていたかつてのくらしを振り返る。						
78	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	84	84	市指定管理料 84
<p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。</p> <p>②子ども講座(7月、1月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/24～5/5の間の8日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/16):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。</p>						
79	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	20	20	市指定管理料 20
今年度より資料館だよりは作成したものをHPで公開。資料館の講座や体験学習などイベントチラシを作成し学校や関連施設に発送周知する。						
80	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,422	1,422	市指定管理料 1,422
資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。						
81	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	1,128	1,128	市指定管理料 1,128
仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行する。						
82	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の際、年間50校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼挽きなどを体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。						

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

83	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	95,545	95,545	市指定管理料 95,545
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。					
84	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,013	13,013	市指定管理料 13,013
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行う。					
①特別展・企画展						
85	企画展「仙台の遺跡めぐり 富沢からのぞく仙台の歴史」	4/23～6/27	富沢遺跡保存館	54	54	市指定管理料 54
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。春季企画展は、仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、身近な文化財を紹介するシリーズとして開催している。今回は仙台の旧石器時代から江戸時代にかけての代表的な遺跡と、各時代の富沢のようすを災害史とからめながら紹介する。					
86	企画展「石製品の考古学」(仮)	7/23～10/3	富沢遺跡保存館	71	71	市指定管理料 71
	宮城県内・仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、石の素材としての魅力や美しさなどを紹介する。					
87	特別企画展「考・古・食ー和食のはじまり」(仮)	10/29～12/19	富沢遺跡保存館	1,665	1,665	市指定管理料 1,665
	世界でも人気となっている和食。今回の企画展では、その根本となる、日本列島の自然環境に応じて多様に利用された食材と食に関わる出土品を、東北地方の遺跡出土資料を中心に紹介する。					
88	企画展「もりの風景2021」(仮)	1/22～3/13	富沢遺跡保存館	20	20	市指定管理料 20
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会などの活動成果を紹介するとともに、自主財源事業「施設広報開発事業」で参加者が作成した作品を展示する。					
89	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,077	1,077	市指定管理料 1,077
	<p>①地底の森フェスタ2021(10/11):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティア会とともに企画実施。</p> <p>②考古学講座(11/20、1/29):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年):当館スタッフが、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物の説明、石器づくりなどのモノづくり体験を行い、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を紹介する活動を行う。また、「冬キラ」や「森を育てる」など、これまで自主財源事業として実施し好評を得た事業も行き、施設の魅力を多様な観点から紹介する事業として位置付ける。土・日・祝を中心に毎月1～2回程度実施。</p> <p>④利用学習事業(6月～3月):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。</p> <p>⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10名を対象に、1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日を設ける。成果は活動報告書にまとめる。</p> <p>⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。</p> <p>⑦地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。</p> <p>⑧富沢ゼミ:富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財などを紹介する講座。</p>					
90	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	180	180	市指定管理料 180
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。					
91	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	938	938	市指定管理料 938
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成する。なお、特別企画展については展示図録を刊行する。					
92	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。					
93	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	353	353	市指定管理料 353
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。					

94	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	195	195	市指定管理料 195
令和4年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。また開館から24年を経過し、常設展の内容が最新の研究成果を反映していないところが増えてきており、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける。						
②地域との連携事業						
95	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設ける。近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等を対象に、懇談会や聞き取り調査を行い、学校や地域との連携事業を進めていくきっかけとする。						

(3)仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

96	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	50,360	50,360	市指定管理料 50,360
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。						
97	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,455	16,455	市指定管理料 16,455
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。						
98	コーナー展示	通年	縄文の森広場	61	61	市指定管理料 61
宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。 ①「東北の縄文遺跡⑤南相馬市中才遺跡」(3/13～6/13) ②「東北の縄文遺跡⑥」(7/31～10/17) ③「東北の縄文遺跡⑦」(12/1～2/13) ④「東北の縄文遺跡⑧」(3/19～)						
99	縄文まつり	5/9、8/9、 10/23、2/6	縄文の森広場	574	574	市指定管理料 574
季節ごとに開催する自由参加イベント。計4回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏などを実施する。						
100	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	1,471	1,471	市指定管理料 1,471
①団体予約：子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験：来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座：「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室。 ④特別イベント：春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。						
101	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	139	139	市指定管理料 139
縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。コロナの影響がある場合は、毎回公募会場30名・オンライン100名対象。 ①「縄文最新研究 最前線①」(12/12) ②「縄文最新研究 最前線②」(1/16) ③「縄文最新研究 最前線③」(2/20)						
102	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	224	224	市指定管理料 224
当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。						

①学校との連携事業

103	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会及び機関研修を実施。10月～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。						
104	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,395	2,395	市指定管理料 2,395
小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習を実施する。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。令和3年度の応募校は30校が見込まれている。						

②地域との連携事業						
105	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。						
106	野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	53	53	市指定管理料 53
野外展示「縄文の森」の利活用の幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクリなどを採取し育てる事業を行ってきた。当年度も、引き続き縄文時代に利用された植物を観察する事業を継続して行う。						
③調査研究事業						
107	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	55	55	市指定管理料 55
各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。						
108	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き堅穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。						
109	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。						
110	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	29	29	市指定管理料 29
令和4年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。						
111	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	
仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

112	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	196,187	196,187	市指定管理料 196,187
文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。						
113	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。						

①特別展・企画展

114	写真展「星野道夫 悠久の時を旅する」	4/17～6/27	仙台文学館	4,805	4,805	市指定管理料 4,805
写真家で詩人の星野道夫の写真展を開催。星野道夫はアラスカの大自然に生きる人間と野生動物、そして語り継がれる神話に魅せられた写真家で、不慮の事故で亡くなるまでアラスカの写真を撮り続けた人物。本展では20歳のときに初めて足を踏み入れたアラスカの村の記録から、亡くなる直前まで撮影していたロシアのカムチャッカ半島での写真など、自身のことばとともに紹介。「自然と人とのかかわり」を追い続けたその軌跡を辿る。						
115	夏休み子ども文学館えほんのひろば みちのく妖怪ツアー	7/17～8/22	仙台文学館	1,625	1,625	市指定管理料 1,625
昨年、開催を見送った、宮城県在住の作家・佐々木ひとみ、野泉マヤ、堀米薫による児童書『みちのく妖怪ツアー』の展示を開催。本作は東北の妖怪ゆかりの地を辿るツアーに参加し、行く先々で一人、また一人と消えてくという内容で、物語は東北の伝承や食文化にも触れながら読むものを恐怖へといざなう内容。展示では全6話を6つのコーナーに分けてそれぞれ紹介するとともに、妖怪登場シーンを再現したフオスポットを設け、物語を体感できるようにする。						
116	特別展「ぼのぼの連載35周年記念 ぼのぼのたちの杜」	9/18～11/28	仙台文学館	3,440	3,440	市指定管理料 3,440
仙台在仙の漫画家・いがらしみきおの代表作「ぼのぼの」の連載35周年を記念して開催。主人公のラッコ「ぼのぼの」はじめ、「シマリスくん」や「アライグマくん」など個性的なキャラクターが繰り広げる日常には、ぼのぼのとしたやり取りから、哲学的な思想、不条理なギャグなど、さまざまな要素がちりばめられている。本作品の魅力や、原画や、自身のコメントを合わせながら、様々な切り口で紹介。						

117	企画展「高山樗牛と土井晩翠(仮)」	1/15～3/21	仙台文学館	2,141	2,141	市指定管理料 2,141
文芸評論家で思想家の高山樗牛と、「荒城の月」で知られ、日本近代詩に名を刻む詩人・土井晩翠。東京帝国大学在学中に「滝口入道」を発表し、卒業後は『帝国文学』『太陽』などの編集にあたった樗牛は、晩翠が詩人として世に出る道筋をつけた人物だった。旧制二高・東京帝国大学の先輩・後輩だった二人の知られざるエピソードを取り上げながら、仙台の街に刻まれた二人にゆかりある地を辿り、交流の軌跡を紹介。						
118	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/13	仙台文学館	213	213	市指定管理料 213
文学館あての年賀状を広く一般から募集する。またゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。						
119	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,694	3,694	市指定管理料 3,694
宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。						
120	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,720	1,720	市指定管理料 1,720
令和4年春の特別展の準備を進める。						

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				備考

(単位:千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

121	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	329,477	329,477	市指定管理料 326,531 敷金返金充当 2,946
平成29年度から5年間の指定管理を受け、その最終年となる当年度は次のとおり施設運営を行う。 (1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化するとともに、火災や震災等の災害に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組む。 (2)利用者と積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスをを行い利用者の増加を目指す。 (3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化する。 (4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進める。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的に行いながら業務改善に努める。 (6)大規模改修についてはこれまで培った管理運営の知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに漏れのない対応を行う。また、工事体制に対し、進捗にあわせた連携・協力などを積極的に行うなど、引き続きよりよい施設づくりに貢献する。 (7)リニューアルオープンに際し改修ポイント等情報を発信し、よりお客様にご満足いただける施設を目指す。 (8)楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として事業の運営サポートを行う。						
						収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

122	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	136,703	136,703	市指定管理料 136,703
「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受け、その2年目となる当年度は次のとおり施設運営を行う。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指していく。 (2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させる。 (3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なっていく。 (4)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進していく。 (5)施設を活性化させる事業として、寄席公演、クラシックコンサートシリーズ、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示事業を行う。						
						収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

123	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	640,413	640,413	市指定管理料 640,413
市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に生かし、人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図っていく。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進める。また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組む。						
						収益事業を含む

124	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	9,020	9,020	市指定管理料 9,020
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供する。</p>						